「望まない妊娠等の防止に関する研究」平成６年度報告書

児童・思春期臨床からみた望まれなかった子ども
－精神神経科を受診した母子について－

上林班　　研究協力者：森岡由起子（山形大学医学部看護学科）
共同研究者：生地　新、柏倉昌樹、井上勝夫
（山形大学医学部精神神経科）

はじめに

精神神経科臨床のなかで時折、望まない妊娠であったが、出産し育てていた子どもに心理的なな問題や精神疾患が生じてきた症例に出会うことがある。妊娠を望まなかった理由は、子どもの父親が精神障害であることがわかったとか、父親が暴力を振るう、ほかに女性関係がわかったなど様々である。その父親と母親の関係上の問題が、子どもの精神的な問題の発生の背景にある場合もあるし、母親が子どもの病気を受容するプロセスに影響する場合もある。また、母親自身の生育歴、父親自身の生育歴にも様々な問題が認められる場合も多い。

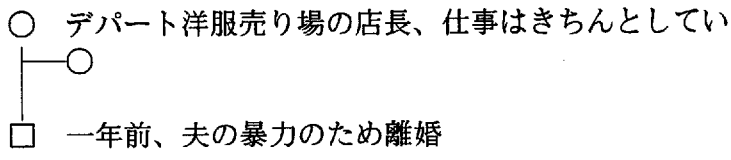
今年度は、山形大学医学部附属病院で経験した児童・思春期の症例で、望まない妊娠で生まれたと思われる症例３例とその母親へのアンケート調査のデータを提示し、その家族病理について若干の考察を加え、今後の研究の方向を検討した。

症例

症例１　Ｍ子　３歳１１ヶ月　母親　Ｓ子　３２歳　店員

主訴　落ちつきがなくて、乱暴である。

家族構成



母親Ｓ子の生活歴とＭ子の妊娠・出産の状況

Ｓ子は、横浜出身。父の職業は分からないという。両親の仲が悪く、子どもの頃から父親が母親に暴力を振るうのを見て育ってきた。ずっと穏やかな家庭に憧れていたという。高校生の頃、交通事故で頭部を強打、逆行性健忘が残り、中学、高校のことが今でも思い出せないという。一度暴力団関係の男性と離婚した後、経営していた喫茶店の常連だった現在の求婚者と知り合う。当時も結婚の話が出たが、政治家の長男という相手の立場から、ためらっていた。その間、飲み屋で元暴力団員だった本児の父親と知り合う。この男性は片親育ちであり、自分と同じ寂しさがある所にひかれて婚約。しかし、次第にこの男性に暴力を振るわれるようになった。職場の友人たちからは、婚約を取りやめにして妊娠したＭ子もおろすように勧められていた。しかし、結局迷いながらも結婚となった。Ｍ子妊娠中はつわりがひどかったが、夫と家に一緒にいたくないので、無理に仕事に出ていた。出産は全く感動がなかったと回想する。生後４日目まで新生児室に足が向かなかったという。

M子の生育歴・現病歴

出生後、M子は主にミルクで育てられた。哺乳力は良好であった。育児休暇が終わった生後２ヶ月からベビーホームに預けられた。発達は、つかまり立ち６ヶ月、始歩10ヶ月とやや早め。発語は遅く「ママ」しか言えなかったが、両親が離婚した２歳頃から急に言葉が出るようになった。また、１歳の頃から、ベビーホームの職員より乱暴であると言われていた。また、母の職場の友人からも同じようなことを指摘されて言た。このため、３歳10ヶ月の時、近医を受診、多動症候群を疑われ、１９９４年11月４日、大学病院精神神経科を紹介受診となった。

当院での治療経過

男性の精神科医が主治医となる。二週に一度の通院で、M子の遊技療法とＳ子の精神療法を行うことになる。初診では、プレイルームでオモチャを見つけると母親の顔を見てにっこり微笑む。Ｓ子もこれに応えて微笑む。玩具をちょっと乱暴に全部引っ張り出す。そして「おにいちゃん、これ何？」と親しげに聞く。「かわいい子ですね。」と主治医が言うと、Ｓ子は「そうですか？」と驚いたような表情をする。「もともと子どもは嫌いなんです。どの子を見ても、全然かわいいと思いません。」という。第２回面接では、シルヴァニアンファミリーのお家を造る。女の子、お母さん、お父さん、男の子の順で人形が登場。何故かみんな背中を向けている。家具も置く。母親に手伝ってもらうが、ちょっとでもオモチャが倒れると神経質に大声を出し、不機嫌になる。時間が過ぎて「片付けようか。」と促すと、素直に片付け始める。物の扱い方は乱暴であるが、遊びにじっくり取り組めること等から、多動症候群は否定された。第３回面接では、シルヴァニアン・ファミリーのお家が前回のままあるのを確認した後、主治医を相手にチャンバラをしかけてくる。母親の話を聞くどころでなくなる。

その後、子どもの遊びが段々攻撃的なものになり、治療者が一人では母親の精神療法を同時平行していくことが困難になった。このため、臨床心理士に協力を依頼、現在は本児のプレイと母親の精神療法を個別に施行し、治療を続けている。

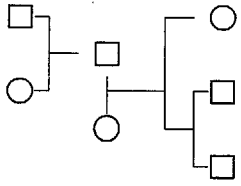
母親Ｓ子のアンケートの結果

母親に対する「妊娠・出産に関するアンケート」の結果（表１、表２）では、父親（夫）は子どもの出産を望んでいたが自分は望んでいたかどうかわからないと回答している。また、妊娠したとわかった時はうれしくなく、ストレスはなかったが、妊娠中はつらく苦しかったと回答している。現在も育児に対する不安が強く、自分の仕事と育児の関係で葛藤があり、子どもの世話は大変であるとしている。

症例２　Ｅ子　１４歳　女子　　母親　Ｔ子　４１歳　主婦

主訴　吐いたりおなかが痛くなるのが恐くて食べられない。

家族構成



父方祖父	６６歳	ふだんは、趣味で畑仕事をするため、別居している。
父方祖母	６５歳	
父	４０歳	会社員
母	４１歳	主婦
Ｅ子	１４歳	中学２年
弟二人	１０歳	双子

母親Ｔ子の生活歴とＥ子の妊娠・出産の状況

Ｅ子の母親Ｔ子は、首都圏近郊の自営業の家に生まれ、３人兄弟の末子で、兄と姉がいる。Ｔ子の母親、つまりＥ子の母方の祖母は、Ｅ子の母親を出産した後、甲状腺機能亢進症に罹患

し、Ｔ子が５歳のころ、２～３カ月入院したこともある。Ｔ子の母親は、治療のために家を空けることが多かったらしいが、寂しい思いをしたというはっきりした記憶はないという。

Ｔ子は、順調に進学し、大卒後は、ある企業に入社した。その企業の研修期間に、現在の夫Ｄと知り合い、つきあうようになった。Ｄは他の女性とも並行してつきあうなど、信頼できないと感じていたが、いろいろなことに目をつぶって結婚してしまった。

当初は、夫婦で生活していたが、夫が郷里に帰ると言い出した。Ｔ子は行きたくなかったが、話し合いは平行線で夫婦仲はしだいに悪くなった。結婚した年の翌年の１月にＥ子を妊娠したことがわかったが、あまり喜びがなかった。４月には、夫が先に郷里に帰ってしまった。子どもを中絶しようかとも思ったが、結局、夫の実家で暮らして子どもを生むことにした。出産は、里帰り分娩で、産後の１カ月は安定していた。しかし、再び、夫の実家に戻ると、夫の母親から、私たちのことをパパ・ママと呼ばせなさいと言われるなど、自分の子どもが取られてしまうという不安を常に抱いていた。また、産後、Ｔ子は甲状腺機能亢進症に罹患している。Ｅ子が３歳半で男の子の双子を出産したが、Ｅ子の方は、夫の母親に取られてしまったという感じがして、だんだんＥ子も嫌いになってしまったという。

Ｅ子の生育歴・現病歴

会社員の両親の第１子として出生。身体面の発育、発達はほぼ正常だった。小学校５年までは、特に大きな病気もせず、丈夫だった。

１９９３年２月、風邪ひいて小学校を休んだ。風邪がなおった後も、おなかが痛くなり、トイレによく行くようになった。おなかが痛くなるといけないと、あまり食べないようにしていたら、だんだん食べられないようになった。学校でも給食のあと、気持ちが悪くなることがあり、学校にもだんだん行けなくなった。その頃、一度、当院を受診した。その後、小児科の医院などを受診したが、Ｅ子の病状はあまり変わらず、ずっと学校へ行けない状態が続いた。１９９３年１２月には、２週間、腹痛のために、Ｃ総合病院に入院した。１９９４年１月ころは、体調も比較的よく、中学校へ少し通い始めたが、保健室で過ごすことも多かった。

当院での治療経過

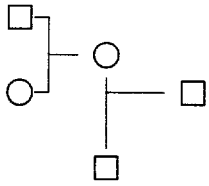
１９９４年５月より再び、当院に通院を始めた。外来では、母子同席で診察し、時々点滴を施行していた。登校もほとんどできなくなり、母親が外出することも不安がるようになった。夜には、抱っこをせがんだりするようになったが、母親はなかなか赤ちゃん返りを受け入れられなかった。５月受診時37kgあった体重が、８月には34kgになった。８月中旬には、精査目的でＣ病院小児科に２回目の入院した。消化管等には異常がなく、３週間で退院となった。その後、母親が家庭での介護に疲れておかしくなるのではないかとＥ子が心配したためと、持続的な点滴を希望して、９月下旬に入院となった。入院後は、点滴を施行し、母親Ｔ子に付き添ってもらい、Ｅ子と母親Ｔ子と別々に精神療法面接を行い、家族面接も定期的に施行している。

母親Ｔ子のＰＢＩの結果

ＰＢＩは、過去の両親の養育態度について遡行的に想起して子どもの側から評価する自記式質問紙票で、ケア・スコア（０～３６点）、オーバープロテクション・スコア（０～３９点）で点数化されるものである。大学生などの健康な集団の平均は、ケア・スコアが２３点前後、オーバープロテクション・スコアが１３点前後であるというデータがある。表３に示したように、母親Ｔ子の父親に対するＰＢＩのケア・スコアは３３点、オーバープロテクション・スコアは６点、母親に対するケア・スコアは３１点、オーバープロテクション・スコアは１点であった。この結果からは、両親ともに大変愛情深く、かつ支配的でなかったと想起していることが伺える。しかし、両親の養育態度を過度に理想化している可能性もある。

症例３　Ｋ　１９歳　男子　　母親　Ｃ子

主訴　いらいらして落ち着かない。乱暴なことをする。
家族構成



母方祖父　７６歳　珪肺

母方祖母　７６歳

母Ｃ子　　５１歳　主婦　　父は、精神分裂病　離婚
Ｋ　　１９歳　通信制高校

Ｃ子の生活歴とＫの妊娠、出産の状況
父親は鉱山労働者であった。二人姉妹の長女であった。３２歳の時に、婿養子に入ってもらう形で、Ｋの父親と結婚した。しかし、Ｋを妊娠して３ヶ月目に、Ｋの父親に精神病院への入院歴があることもわかった。そこで、出産すべきかどうか迷ったが結局Ｋを出産した。最初は、母乳だったが、４ヶ月で母乳は止まった。Ｋを出産後、Ｋの父親が被害妄想のようなことを言い出したため、Ｋが１歳の時にＣ子は離婚した。

Ｋの生育歴・現病歴
Ｋは、周産期には特に問題なく、身体的な発育は正常だった。
小学校に入って成績は上位だったが、低学年のころから短気で協調性がなく、鉛筆や下敷きを噛んだり、靴を脱いで素足で歩くなとの変わった行動がみられた。小学校３年の頃には、意に添わないことがあると棒で友達を殴ったり、大声を出したりするようになった。
このような行動上の問題で、小学校３年の８月に当院を受診した。月１～２回の通院で箱庭などの遊戯療法を施行して、やや行動が落ち着き、１年半で治療終結とした。
その後、協調性のなさや短気な傾向は続いており、中学２年になってからは不登校ぎみとなった。Ｙ病院小児科で心理療法を受けていたが、母親が交通事故で入院したため、中断した。母親の入院後、祖母と半年ほど二人暮らしだったが、祖母とは折り合いが悪かった。そして、夜に近所を歩き回ったり、勝手に人の家に上がり込んだりしたため、Ｎ病院精神科に１ヶ月半ほど入院した。退院後、まったく学校へ行けなくなり、１９９１年３月、当院を再受診した。

当院での治療経過
再受診した時点では、周囲の音や声ですぐに注意がそがれ集中力が乏しく、特定の興味（ＴＶ番組、野球）へのこだわりが強いという状態であった。表情も硬く、一見して精神分裂病とも思える雰囲気であった。精神分裂病と暫定的に診断し、抗精神病薬中心の薬物療法と支持的な精神療法と、外来の「たまり場」への参加を促した。
「たまり場」は、思春期の子ども達が自由に遊び交流する場として設定されており、その場ではＫは完全に浮いていた。それでも、他の子どもの交流のなかで少しづつ周囲にあわせることを覚えていった。衝動的な行動も減少した。しかし、まだ集団生活はできない状態である。週２回通院し、家庭教師からも勉強をみてもらっている。

考察
症例１では、母親は、子どもが異常に乱暴でおかしいと周囲から言われて不安になっており、自分自身の子どもに対する対応が厳しすぎるとも言われて、自分の育児能力に自信がないと言っている。このような母親の不安や自信のなさは、自分の母親が信頼できないということにつながっているように思われる。実際、子どもを育てるのに一番頼れるのは友達であるという。母親自身の生育歴において、両親の仲が悪く、父親が母親に暴力をふるうのをみてきたという問題があるが、自らの結婚相手を選ぶ時に、結果的に自分の父親とよく似た暴力をふるう男性

に惹かれてしまうという世代間伝達がみられる。子どもの落ち着きのなさは、母親の不安が影響している面もあるが、母親にとっては、暴力的な父親とイメージが重なるために、よけい育児が難しいと感じているようである。

症例２の母親は、ＰＢＩ上は、生育歴に問題がないように思われるが、母親の母親が病気がちであったことや、母親の入院で不在の期間のことをあまり記憶していない。自分の寂しさや甘えたい気持ちをあまり自覚していないようである。誠実さに欠ける夫と分かれるのがこわくてついて行き、結婚したことも母親のそうした病理と関連があるように思われる。そして、長女のＥ子は、下の双子の男の子たちが生まれるまでは、自分の唯一の味方として依存する対象であり、それ以降は姑と夫の側に寝返った敵のように感じていたようである。今も夫へは信頼感がなく、それでいて離婚もできないということに悩んでおり、そうした母親の態度がＥ子の回復を妨げているように思われる。

症例３は、山形県に多い婿取り婚の問題の典型と言える。山形県では、男子が生まれないと家を存続させるために、たとえ精神障害であっても婿として迎えることがある。しかし、その婿の病気が再燃したり悪化すると結局離婚してしまい、子どもは母親がそのまま育てるという例が多い。Ｋの母親もそういう道を選んだ。しかし、その子どもがその父親と同じように精神障害になるのではないかという不安を抱きながら、女手一つで子どもを育てていかなければならなかった。また、Ｋの祖母もＫが男子ということもあって、父親とイメージが重なってＫを受け入れがたい気持ちがあったようである。児童期からのＫの問題行動は、遺伝的な要素に加えて、母親や祖母が不安を抱きながら育てたというの養育環境の問題も関係しているように思われる。

今後は、症例を重ね、望まない妊娠で出産した母親への心理的な援助のあり方や、望まない妊娠出産の後に、子どもに心理的な問題が生じた時の治療的な対応方法について、検討して行きたいと考えている。

表1　　妊娠・出産に関するアンケート（上林ら、１９９４年による）　　－症例Mの母の回答－

1．生年月日　昭和・平成　3年1月13日　（男・女）　年齢　3歳11月

2．家族構成　いっしょに住んでいる人
（本児の）母　父　兄　姉　弟　妹　祖父　祖母　その他（　　）　不明

3．きょうだいの数、本人を含めて　0人　本児は　1番目　不明

4．出産したときの母親の年齢　29歳　不明

5．出産したときの父親の年齢　27歳　不明

6．本児の妊娠は何回目の妊娠ですか。　3回目　（就産・自然1回、人工1回）　不明

7．本児の妊娠は予定した妊娠でしたか。　[はい・いいえ]　不明

8．出産するに際して、身内に気がかりな病気がありましたか。　[はい・いいえ]　不明
ありの場合、だれが＿＿＿＿どんな病気で
だれが＿＿＿＿どんな病気で

9．妊婦検診を何回利用しましたか。　全回　不明

10．母親学級を何回利用しましたか。　2回　不明

11から17は妊娠中のお母さんの保健に関する質問です。

11．本児の妊娠中に次にような病気がありましたか。
[特になし・インフルエンザ・風疹・かぜ・その他発疹がでる病気・貧血・心臓病・糖尿病・その他の病気＿＿＿＿]

12．妊娠中たばこを吸いましたか。
[ふだんから吸わない・妊娠中は吸わなかった・少しは吸った・吸った]　不明

13．妊娠中お酒を飲みましたか。
[ふだんから飲まない・妊娠中は飲まなかった・少しは飲んだ・飲んだ]　不明

14．流産しそうになったことがありましたか。　[あり・なし]　不明
ありの場合、妊娠　2ヶ月のころ

15．妊娠中、レントゲン検査など放射線をあびたことがありますか。　[あり・なし]　不明
ありの場合、妊娠　＿ヶ月のころ

16．妊娠中にむくみ、高血圧、蛋白尿などがありましたか。　[あり・なし]　不明
ありの場合、妊娠　＿ヶ月のころ

17．妊娠中、薬を使用しましたか。
[使用なし・バリウム・安定剤・糖尿病の薬・抗生物質・睡眠薬・その他＿＿＿]　不明
薬の使用のある場合、その薬を飲んだのは妊娠　2ヶ月のころ

18．別紙の質問です。面接後記入してもらってください。　[記入あり・なし]

19．出産時に以下のことがありましたか。
[特になし・陣痛をおこす薬の使用・難産・さかご・鉗子分娩・吸引分娩・帝王切開・臍の緒が首に巻いていた・早期破水・仮死・その他＿＿＿＿]　不明

20．分娩までの週数は（予定日が40週）　40週　不明

21．分娩時間はどのくらいかかりましたか。　2～3時間　不明

22．生まれたときの児の体重はいくらでしたか。　3140g　不明

23．黄疸のために治療をしましたか。
[しない・光線療法＿日間・血漿交換・その他＿＿＿＿]　不明

24．保育器を使用しましたか。　[しない・＿日間使用]　不明

25．本児は生まれつきの問題を何か指摘されましたか。　[特になし・あり]　不明
ありの場合その内容は＿＿＿＿　不明

次の26から33は生まれて3ヶ月の間の様子についてたずねるものです。

26．赤ちゃんは母乳やミルクを飲ませにくい子だった。　[はい・いいえ]　不明

27．赤ちゃんは、すぐいらいらして、泣いたりわめいたりするあやしてもなかなかおさまらないタイプの子であった。　[はい・いいえ]　不明

28．赤ちゃんは寝つきにくく、ぐずった。　[はい・いいえ]　不明

29．赤ちゃんはよく寝る子で手がかからなかった。。　[はい・いいえ]　不明

30．赤ちゃんはあやすとよく笑い、親の目をよく見た。　[はい・いいえ]　不明

31．病気をしがちの赤ちゃんだった。　[はい・いいえ]　不明

32．比較的楽に育てられる赤ちゃんだと思う。　[はい・いいえ]　不明

33．赤ちゃんはよく声を出している。　[はい・いいえ]　不明

34．出産に際して経済的に負担に思いましたか。　[はい・いいえ]　不明

35．学校教育を受けた期間は、小学校に入学してから数えて何年でしたか。
お母さんは　[8年以下・9・10・11・12・13・14・15・16・17年以上]　不明
（中卒）　（高校卒）
お父さんは　[8年以下・9・10・11・12・13・14・15・16・17年以上]　不明
（中卒）　（高校卒）高校1年時、3日登校したのみ（高校中退）

表2　　妊娠・出産に関するアンケート（上林ら、１９９４年による）　　－症例Mの母の回答－

３６．別紙の質問です。面接後記入してもらってください。　［記入 (あり)・なし］

３７．あなたは現在、仕事をしていますか。　(はい)・いいえ］　不明

はいの場合、仕事時間のお子さんの養育は

(保育所)・職場内保育所・家庭（養育者は　　）・その他（　　）］　不明

いいえの場合、今後いつかは仕事をしたいと思っていますか。　［はい・いいえ］　不明

３８．お母さんは出産前、仕事をしておられましたか。　(はい)・いいえ］　不明

３９．子供はあと何人ほしいですか。　<u>０人</u>　不明

４０．出産に伴ってあなたの人生設計に変化がありましたか。　(はい)・いいえ］　不明
はいの場合、どんなことですか。

４１．身近に育児のことなど気軽に相談する人がいますか。　(はい)・いいえ］　不明

はいの場合、それはどなたですか。（複数に○をつけてかまいません。）

［配偶者・母・姑・それ以外の家族・(友達)・保健婦・その他　　］

<u>次の２点について、率直に現在のお考えをお聞かせください。</u>

４２．本児の出生を、母親は　［望んでいた・望んでいなかった・(わからない)］　回答なし

４３．本児の出生を、父親は　［(望んでいた)・望んでいなかった・わからない］　回答なし

４４．母親が出生の期待について動揺することがありましたか。　［はい・(いいえ)］　回答なし
はいの場合、どんなことですか。

別紙

１８．妊娠中のあなたの気持ちに当てはまるところに○をつけてください。

妊娠したとわかった時うれしかった。　［はい・どちらでもない・(いいえ)］

妊娠中自分のことでストレスがあって大変だった。　［はい・(どちらでもない)・いいえ］

自分が病気などして、心配した。　［はい・どちらでもない・(いいえ)］

生まれてくる子のことが楽しみだった。　［はい・(どちらでもない)・いいえ］

妊娠中、家庭内に気苦労が多くて大変だった。　(はい)・どちらでもない・いいえ］

妊娠は苦しくつらかった。　(はい)・どちらでもない・いいえ］

そのほか妊娠中に特に感じていたことや特別なことがあればお書きください。

３６．子供を持ってからのあなたの気持ちに当てはまるところに○をつけてください。

出産は達成感があってよかった。　［はい・(どちらでもない)・いいえ］

育児に対する不安がある。　(はい)・どちらでもない・いいえ］

自分の仕事との関係で葛藤がある。　(はい)・どちらでもない・いいえ］

子供はとてもかわいい。　［はい・(どちらでもない)・いいえ］

家族でもめることがある。　［はい・どちらでもない・(いいえ)］

子供の世話は大変である　(はい)・どちらでもない・いいえ］

家族の育児への協力に満足している。　［はい・どちらでもない・(いいえ)］

表3　Parental Bonding Instrument (PBI)　－症例E子の母T子の回答－

以下にお父様のあなたに対する、さまざまな態度やふるまいが列挙されています。
あなたの現在までの記憶をもとにして、以下の質問項目に対して、最も適当なところに
○印を入れてください。（もし、お父様についての記憶がない方は、記入しないでください。）

父親について

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1．暖かく優しい声で話しかけてくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
2．必要なほどには手助けしてくれなかった。	3( )	2( )	1( )	0(○)
3．好きなことをさせてくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
4．私に対して冷たかった。	3( )	2( )	1( )	0(○)
5．私が抱えている問題や悩みに、理解を示してくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
6．私に対して優しかった。	3(○)	2( )	1( )	0( )
7．自分で意志決定するのを、好ましく思ってくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
8．大人びてくることを喜ばなかった。	3( )	2( )	1(○)	0( )
9．私がしようとすることすべてにわたってコントロールしようとした。	3( )	2( )	1( )	0(○)
10．私のプライバシーを侵害した。	3( )	2( )	1( )	0(○)
11．私といろいろなことを話すのを楽しんでいた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
12．よく私にほほえみかけてくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
13．私のことを子供扱いすることが多かった。	3( )	2(○)	1( )	0( )
14．私が必要な事や望んでいる事に理解を示さなかった。	3( )	2( )	1(○)	0( )
15．物事を私にまかせてくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
16．私に自分は望まれていない子だと思わせた。	3( )	2( )	1( )	0(○)
17．精神的に不安定なときは、なだめてくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
18．あまり私としゃべらなかった。	3( )	2( )	1(○)	0( )
19．私を父親に頼らせようとした。	3( )	2( )	1( )	0(○)
20．父親がそばにいないと自分のことができない子だと私のことを考えていたらしい。	3( )	2( )	1( )	0(○)
21．できる限り自由にさせてくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
22．好きなときに外出させてくれた。	3( )	2(○)	1( )	0( )
23．過保護だった。	3( )	2( )	1(○)	0( )
24．ほめてくれなかった。	3( )	2( )	1(○)	0( )
25．好きな服を着せてくれた。	3( )	2(○)	1( )	0( )

以下にお母様のあなたに対する、さまざまな態度やふるまいが列挙されています。
あなたの現在までの記憶をもとにして、以下の質問項目に対して、最も適当なところに
○印を入れてください。（もし、お母様についての記憶がない方は、記入しないでください。）

母親について

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1．暖かく優しい声で話しかけてくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
2．必要なほどには手助けしてくれなかった。	3( )	2( )	1(○)	0( )
3．好きなことをさせてくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
4．私に対して冷たかった。	3( )	2( )	1( )	0(○)
5．私が抱えている問題や悩みに、理解を示してくれた。	3( )	2(○)	1( )	0( )
6．私に対して優しかった。	3(○)	2( )	1( )	0( )
7．自分で意志決定するのを、好ましく思ってくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
8．大人びてくることを喜ばなかった。	3( )	2( )	1( )	0(○)
9．私がしようとすることすべてにわたってコントロールしようとした。	3( )	2( )	1( )	0(○)
10．私のプライバシーを侵害した。	3( )	2( )	1( )	0(○)
11．私といろいろなことを話すのを楽しんでいた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
12．よく私にほほえみかけてくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
13．私のことを子供扱いすることが多かった。	3( )	2( )	1(○)	0( )
14．私が必要な事や望んでいる事に理解を示さなかった。	3( )	2( )	1(○)	0( )
15．物事を私にまかせてくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
16．私に自分は望まれていない子だと思わせた。	3( )	2( )	1( )	0(○)
17．精神的に不安定なときは、なだめてくれた。	3( )	2(○)	1( )	0( )
18．あまり私としゃべらなかった。	3( )	2( )	1(○)	0( )
19．私を母親に頼らせようとした。	3( )	2( )	1( )	0(○)
20．母親がそばにいないと自分のことができない子だと私のことを考えていたらしい。	3( )	2( )	1( )	0(○)
21．できる限り自由にさせてくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
22．好きなときに外出させてくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )
23．過保護だった。	3( )	2( )	1( )	0(○)
24．ほめてくれなかった。	3( )	2( )	1( )	0(○)
25．好きな服を着せてくれた。	3(○)	2( )	1( )	0( )

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

はじめに

精神神経科臨床のなかで時折、望まない妊娠であったが、出産し育てていた子どもに心理的なな問題や精神疾患が生じてきた症例に出会うことがある。妊娠を望まなかった理由は、子どもの父親が精神障害であることがわかったとか、父親が暴力を振るう、ほかに女性関係がわかったなど様々である。その父親と母親の関係上の問題が、子どもの精神的な問題の発生の背景にある場合もあるし、母親が子どもの病気を受容するプロセスに影響する場合もある。また、母親自身の生育歴、父親自身の生育歴にも様々な問題が認められる場合も多い。

今年度は、山形大学医学部附属病院で経験した児童・思春期の症例で、望まない妊娠で生まれたと思われる症例 3 例とその母親へのアンケート調査のデータを提示し、その家族病理について若干の考察を加え、今後の研究の方向を検討した。